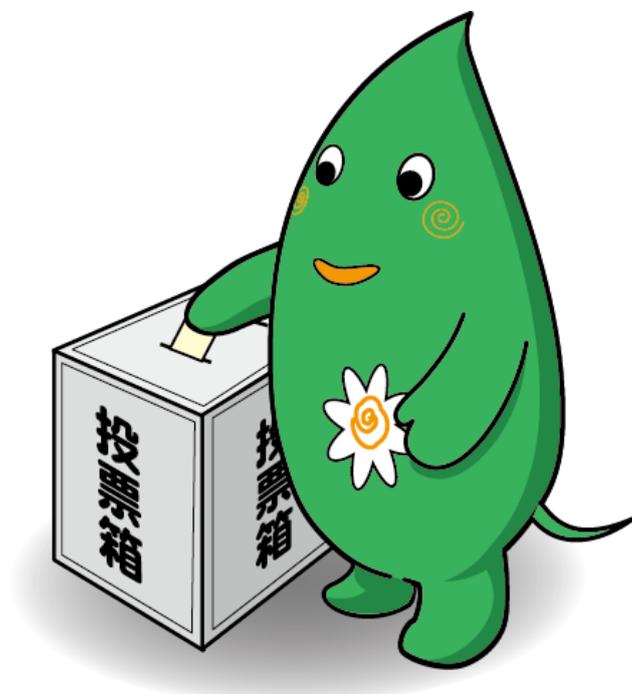


令和元年度

政治と選挙の意識調査



大和市イベントキャラクター「ヤマトン」

大和市明るい選挙推進協議会
大和市選挙管理委員会

◆◆ はじめに ◆◆

大和市の有権者の皆さんは、政治や選挙について日ごろどのような意見や考えをお持ちなのでしょうか。

大和市では、明るい選挙推進活動の一環として、毎年度、市内にお住いの有権者を対象とした「政治と選挙に関する意識調査」を実施しておりますが、今年度も市内在住の1,000人の有権者の方々に調査票をお送りし、ご協力をお願いいたしました。

近年は、選挙のたびに投票率の低さが話題になりますが、中でも若年層の投票率の低さが問題となっていることから、特に10代の意見を収集するため、対象者1,000人のうち200人を18歳と19歳の有権者とし、それぞれ100人ずつ抽出してアンケート用紙を送付いたしました。

昨年は、4月に神奈川県知事・県議会議員選挙及び大和市長・市議会議員選挙、7月に参議院議員通常選挙が執行されました。

市ではこれまでのアンケート結果を参考にして、投票環境の向上を図るため、期日前投票所を2か所増やし4か所としました。

結果として、すべての選挙において投票率が前回は上回ることはありませんでしたが、期日前投票者数は大幅に増やすことができました。

大和市明るい選挙推進協議会と大和市選挙管理委員会は、投票率向上に向けて、有権者に対するさまざまな啓発活動を行っておりますが、この活動がより効果的となるよう、今回の調査結果を活用していきたいと考えております。

併せて、この調査を通して有権者の皆さんが、政治や選挙への興味と関心をさらに高めていただくきっかけや参考となれば幸いです。

最後に、この調査の実施に際し、多くの有権者の皆さんにご協力いただきましたことを深く感謝いたします。

令和2年3月

大和市明るい選挙推進協議会
大和市選挙管理委員会

目 次

1	調査の概要	1
2	回答者の構成	2
3	調査結果	4
	（1）生活・政治に関する意識	4
	問 1 生活の満足度	4
	問 2 国政への満足度	5
	問 3 国政への関心度	6
	問 4 支持する政党の有無	7
	（2）低投票率に対する意識	8
	問 5 低投票率に対する意識	8
	問 6 低投票率の理由	9
	問 7 低投票率の対策	10
	問 8 政治的事柄の話題や議論の頻度	12
	問 9 期日前投票制度の認知度	13
	（3）外国人の参政権に対する意識	14
	問 10 選挙権に対する意識	14
	問 11 被選挙権に対する意識	15
	（4）国民投票制度に対する意識	16
	問 12 国民投票制度の認知度	16
	（5）意見・感想の集計	17
4	調査票	18
5	資料	20
	（1）衆議院小選挙区選出議員選挙投票率の推移	20
	（2）参議院神奈川県選出議員選挙投票率の推移	20
	（3）神奈川県知事選挙投票率の推移	21
	（4）神奈川県議会議員選挙投票率の推移	21
	（5）大和市長選挙投票率の推移	22
	（6）大和市議会議員選挙投票率の推移	22

1 調査の概要

1 調査の目的

選挙において投票する際には、普段から政治について知識と関心を持ち、さらに「投票」という有権者としての意思表示に参加する意欲を持つことが必要です。この参加意欲の向上を図るために、選挙啓発活動は重要な役割を担っています。

有権者の政治や選挙に対する意識は、年代や性別などによりさまざまですが、その違いを的確に把握することで、より効果的な選挙啓発活動を行うことが可能となります。

今回の調査は、有権者の生活や政治に関する意識のほか、選挙時の投票行動について調査したものであり、今後の選挙啓発活動に役立てるための資料とするものです。

2 調査の方法

- (1) 調査対象者：市内に居住する満18歳以上の男女
- (2) 調査対象者数：1,000人（男性490人 女性510人）
 - ① 20歳以上の有権者から800人（男性393人 女性407人）
 - ② 18歳の有権者から100人（男性47人 女性53人）
 - ③ 19歳の有権者から100人（男性50人 女性50人）
- (3) 抽出方法：選挙人名簿から無作為に抽出
- (4) 調査方法：郵便調査法（回答も郵便による）

3 調査した事項（18・19ページ調査票参照）

- (1) 生活・政治に関する意識
- (2) 選挙時の投票行動に関する意識
- (3) 投票参加啓発に関する意識
- (4) 外国人の参政権に関する意識

4 調査の実施時期

令和2年2月3日発送（令和2年2月28日締切）

5 調査票の回収数・回収率

322枚・32.2%

6 調査結果の集計

大和市選挙管理委員会のPCにより集計

※端数処理の関係で100%にならないものもあります。

7 調査結果の分析

大和市明るい選挙推進協議会及び大和市選挙管理委員会

8 調査の実施主体

大和市明るい選挙推進協議会及び大和市選挙管理委員会

2 回答者の構成

《年代別》

	年代	回答者 (人)	比率 (%)
1	18～19歳	41	12.7
2	20～24歳	18	5.6
3	25～29歳	6	1.9
4	30～39歳	31	9.6
5	40～49歳	48	14.9
6	50～59歳	47	14.6
7	60～69歳	42	13.0
8	70～79歳	68	21.1
9	80歳以上	21	6.5
	計	322	100.0

《男女別》

	性別	回答者 (人)	比率 (%)
1	男	148	46.0
2	女	174	54.0
	計	322	100.0

《職業別》

	年代	回答者 (人)	比率 (%)
1	農・林・漁業	1	0.3
2	商・工業	6	1.9
3	自由業	8	2.5
4	建設業	8	2.5
5	管理職	20	6.2
6	事務職	19	5.9
7	専門技術職	43	13.4
8	現業職・販売職	48	14.9
9	主婦・主夫(専業)	76	23.6
10	学生	48	14.9
11	その他の無職	45	14.0
	計	322	100.0

《 地区別 》

	居 住 地 区	回答者 (人)	比 率 (%)
1	下鶴間・つきみ野	51	15.8
2	中央林間・中央林間西	36	11.2
3	南林間・林間・鶴間(2丁目)・西鶴間(1、2、6～8丁目)	46	14.3
4	鶴間(1丁目)・西鶴間(3～5丁目)	11	3.4
5	上草柳・桜森	35	10.9
6	深見、深見西、深見東、深見台、大和東、大和南	38	11.8
7	中央・草柳(1、2丁目)、下草柳	21	6.5
8	草柳(3丁目)・柳橋・福田(1～8丁目)	24	7.5
9	上和田(上和田団地を除く)	21	6.5
10	上和田団地・下和田・いちょう団地	5	1.6
11	福田(地番)・渋谷・代官	34	10.6
	計	322	100.00

《 居住年数 》

	現住所の 居住年数	回答者 (人)	比率 (%)
1	1年未満	19	5.9
2	1～5年未満	30	9.3
3	5～10年未満	35	10.9
4	10～20年未満	94	29.2
5	20～30年未満	54	16.8
6	30年以上	88	27.3
7	わからない	2	0.6
	計	322	100.0

《 投票所までの所要時間 》

	投票所までの 所要時間	回答者 (人)	比 率 (%)
1	5分未満	80	24.8
2	10分未満	121	37.6
3	20分未満	82	25.5
4	20分以上	20	6.2
5	わからない	19	5.9
	計	322	100.0

※「徒歩」による移動を想定

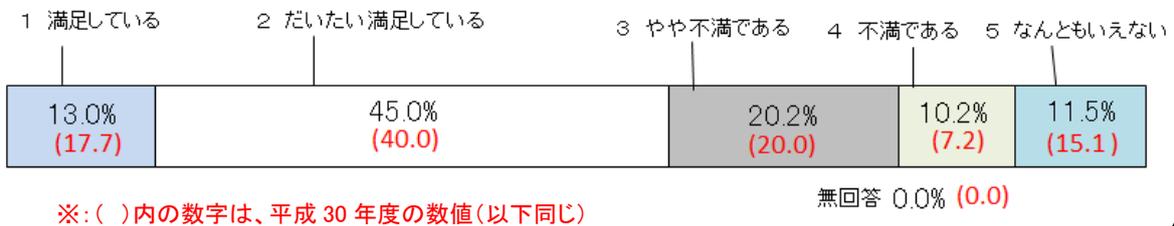
(注意) 端数処理により、計が100%にならない場合があります。

3 調査結果

(1) 生活・政治に関する意識

生活の満足度

問1 あなたは、現在の生活についてどう感じていますか。



調査の結果を生活満足層（1と2を回答した人）と、生活不満足層（3と4を回答した人）とに分けて、最近12年間の推移を示したものが図1です。

前年と比較して、満足層は0.3ポイント増加して58.0%、不満足層も3.2ポイント増加して30.4%でした。

最近12年間では、平成23年以降、満足層が50%を超えており、不満足層は多少の増減はあるものの、平成19年の43.6%をピークに減少傾向にあったものが、今回は増加に転じました。

また、男女別では、満足層は男性58.8%、女性57.5%で、不満足層は男性29.7%、女性31.0%と、男性の方が満足度の割合が高い結果となりました。

図1 生活満足度の推移

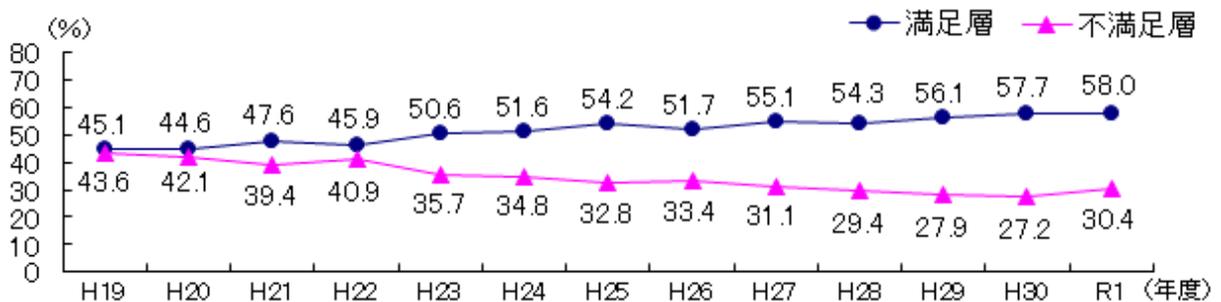
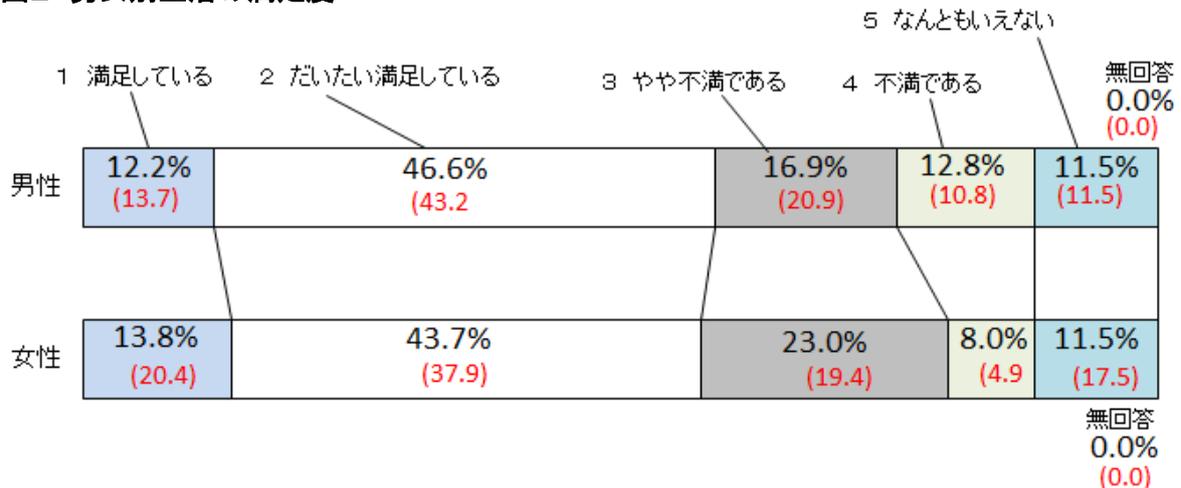
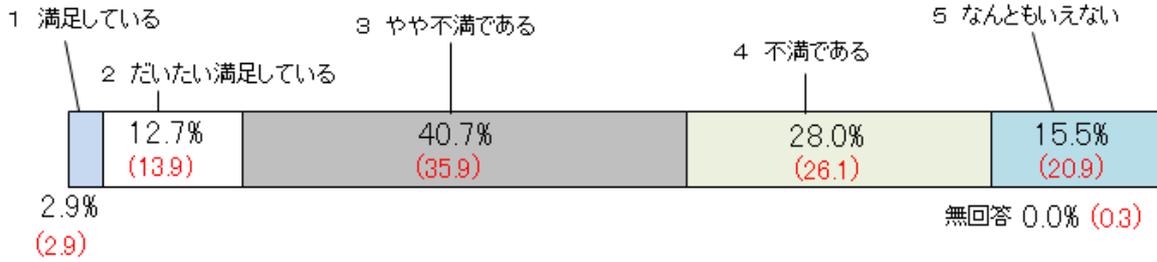


図2 男女別生活の満足度



問2 あなたは、現在の国の政治についてどう感じていますか。



国政に対する満足層（1と2を回答した人）は、前年より1.2ポイント減少して15.6%であるのに対し、不満足層（3と4を回答した人）は、前年より6.7ポイント増加して68.7%と、依然として国政に対する不満が高い状況が続いています。

最近12年間を見てもみると、満足層は平成25年に10ポイント近く増加し10%を超えましたが、その後は大きく増えることはなく、20%を超えることはありません。また、不満足層につきましては、同年に20ポイント近く減少し、平成27年から60%台前半で推移していましたが、今回は、68.7%と、最近の5年間で一番高い結果となりました。

図3 国政満足度の推移

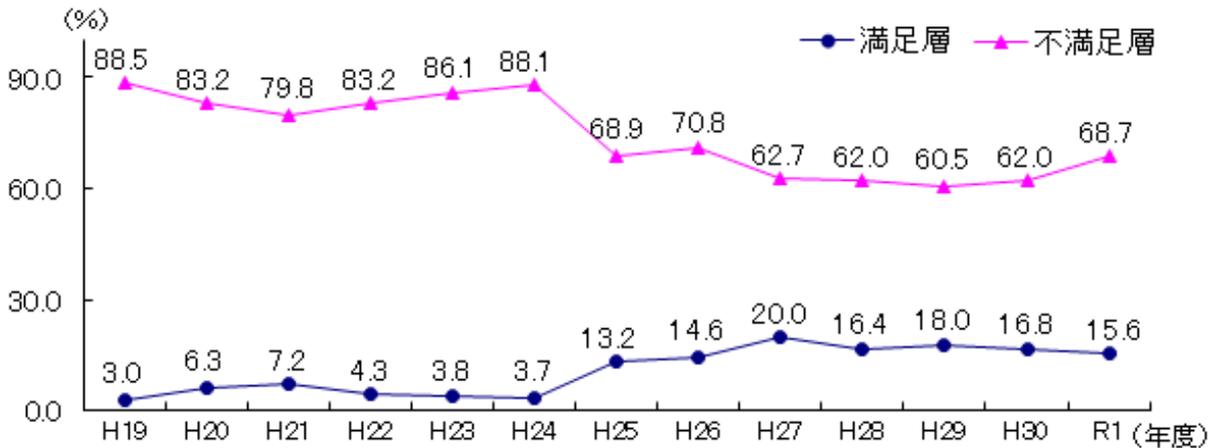
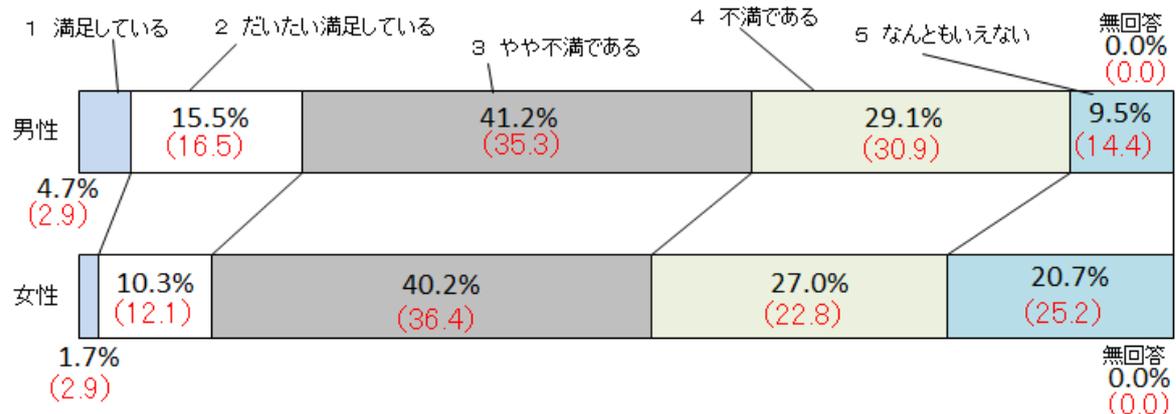
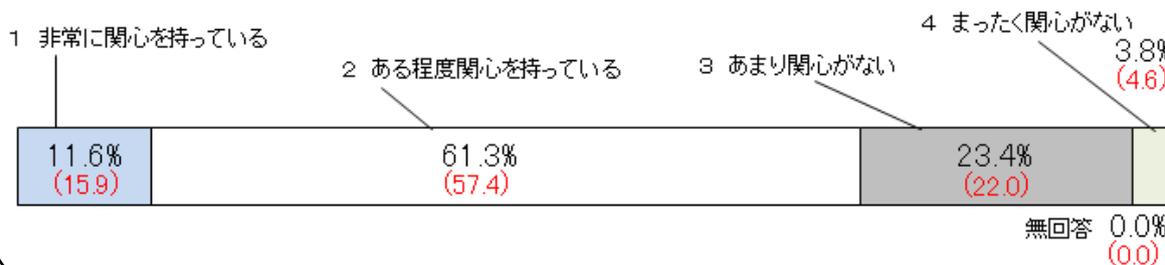


図4 男女別国政への満足度



問3 あなたは、日頃国の政治に関心を持っていますか。

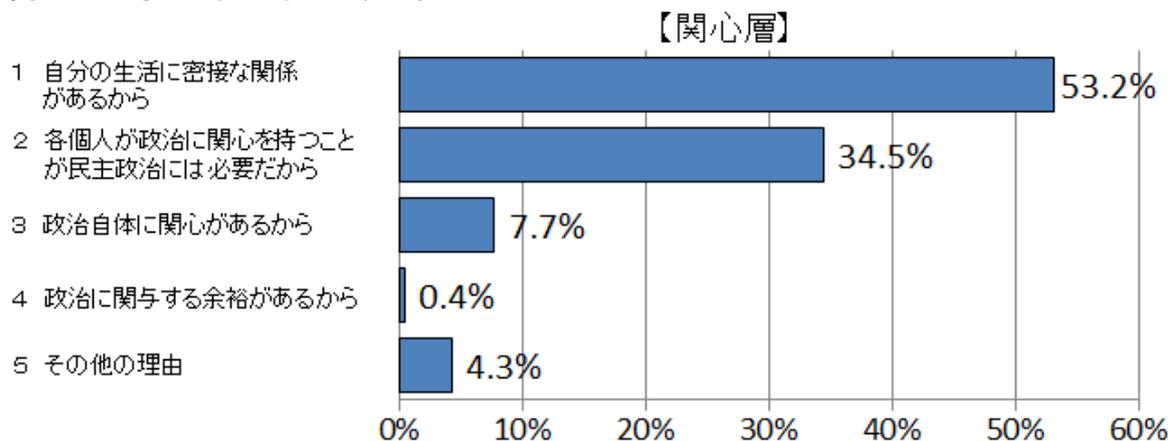


国の政治に関心を持っている人（1と2を回答した人）は72.9%と非常に高い割合を示していますが、関心がない人（3と4を回答した人）も27.2%と4人に1人いることが分かります。関心がないとの回答は年々増加する傾向にあります、

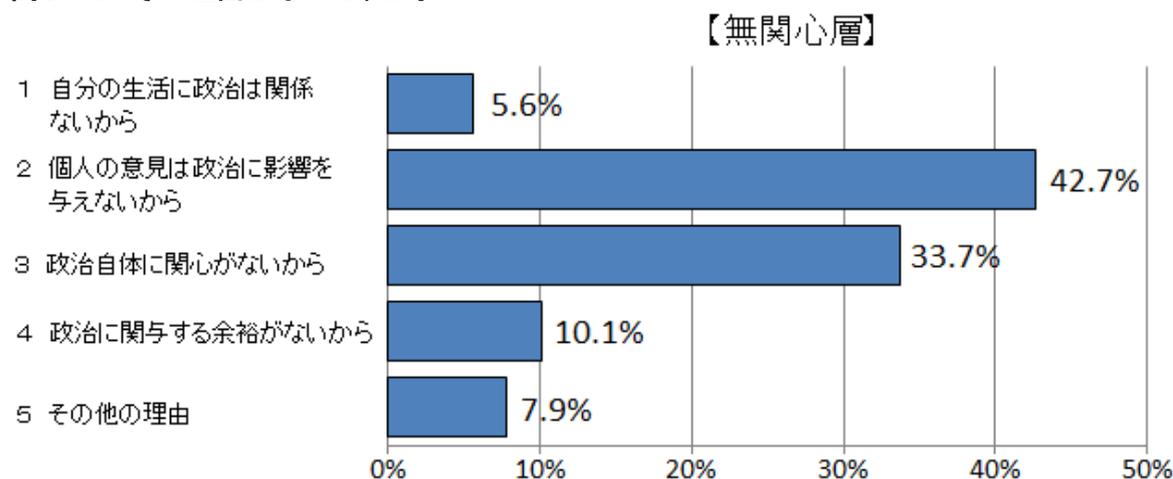
関心層の理由としては、「自分の生活に密接な関係があるから」（53.2%）と「各個人が政治に関心を持つことが民主政治には必要だから」（34.5%）で8割以上を占めています。

一方、無関心層では「個人の意見は政治に影響を与えないから」が42.7%で最も高く、続いて、「政治自体に関心がないから」（33.7%）で、いわゆる「あきらめ型」といえる人たちも8割近くを占めています。

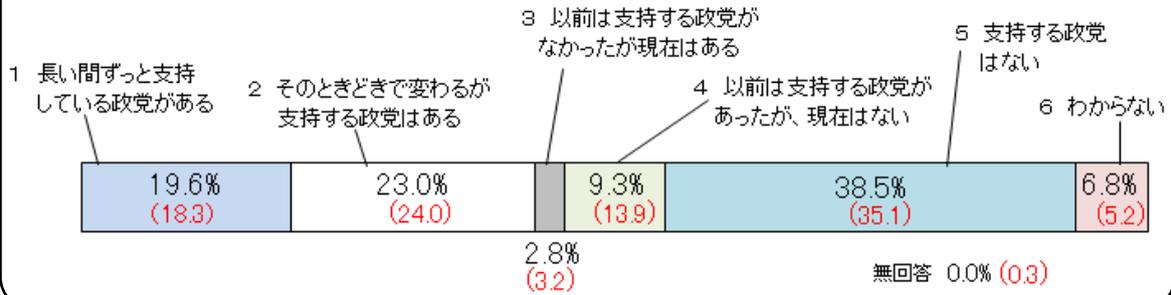
問3の1 その理由はなんですか。



問3の2 その理由はなんですか。



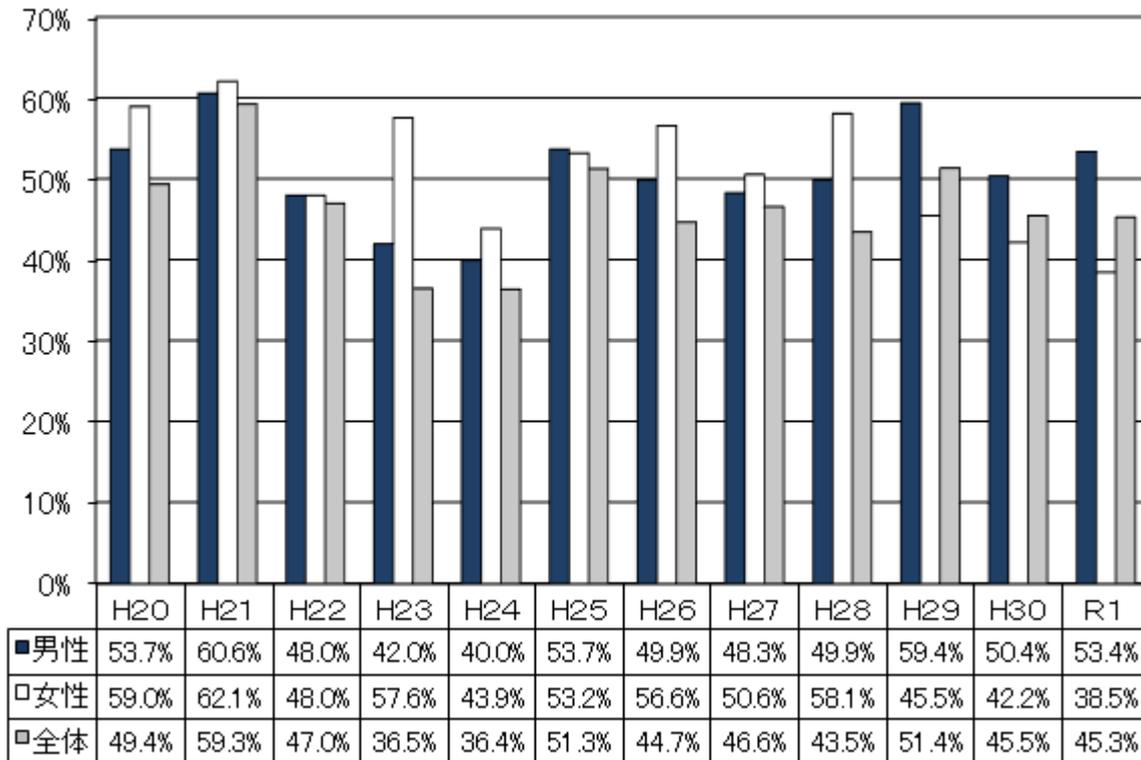
問4 あなたは、支持する政党がありますか。

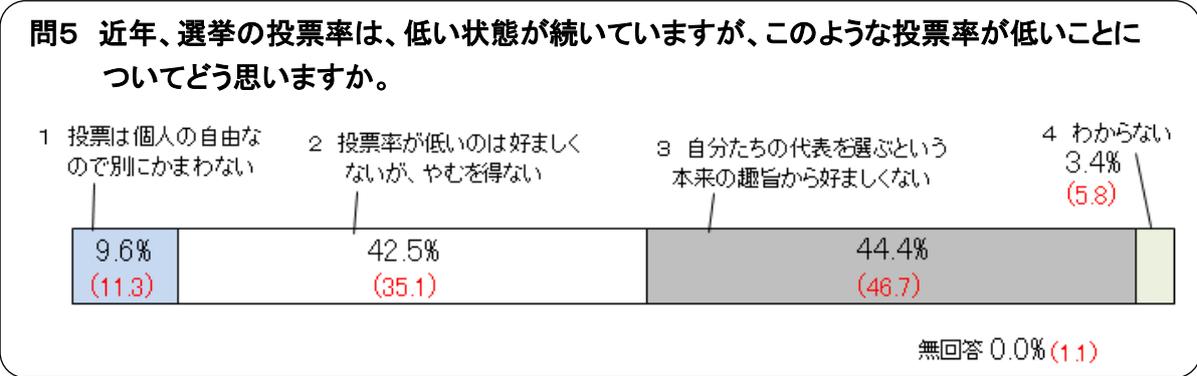


「長い間ずっと支持している政党がある」と答えた固定的政党支持者（19.6%）と、「そのときどきで変わるが支持する政党はある」（23.0%）「以前は支持する政党がなかったが現在はある」（2.8%）と答えた流動的政党支持者を合わせた「支持政党あり」の人は、45.4%と前年に比べて0.1ポイント減少しています。

また、「以前は支持する政党があったが現在はない」あるいは「支持する政党はない」と答えた「支持政党なし」の人も、47.8%と前年より1.2ポイント減少しています。

図5 支持政党ありの推移

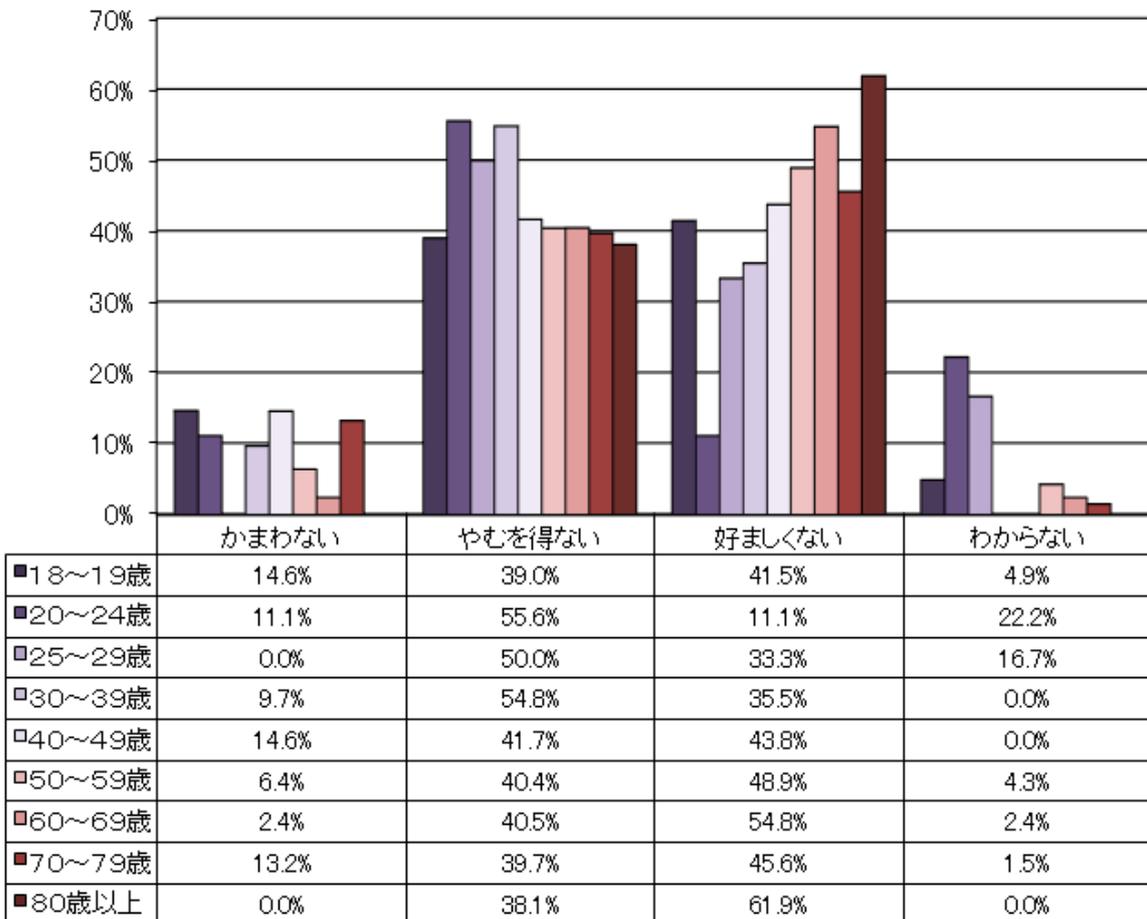




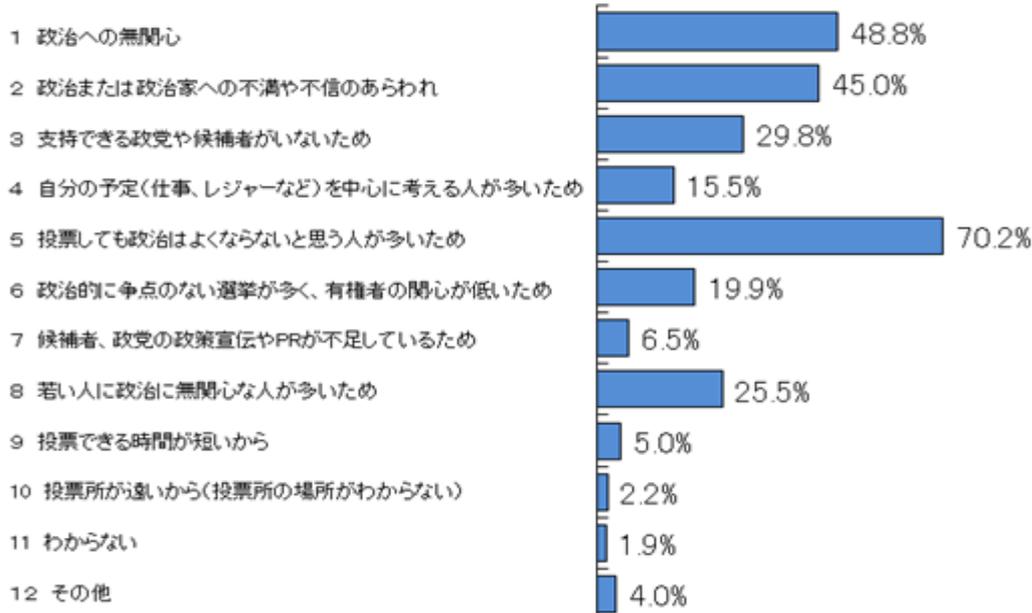
投票率が低いことについて、「好ましくない」(3と回答した人)が最も高く44.4%と約半数となっています。しかし、「かまわない」(1と回答した人)の肯定派と「やむを得ない」(2と回答した人)のあきらめ派を合わせた、低投票率を容認していると思われる人は半数を上回る52.1%となっており、投票率低下の一つの原因であることがうかがえます。

年代別にみると、18～19歳では、「やむを得ない」と「好ましくない」がともに40%前後と拮抗していますが、20～24歳では、「やむを得ない」が55.6%、「好ましくない」が11.1%と大きな開きが生じています。若い世代は、年齢が上がるに従い、周りの環境が変わり、これに伴い選挙に対する意識も変化しているようです。

図6 低投票率についての意識（年代別）



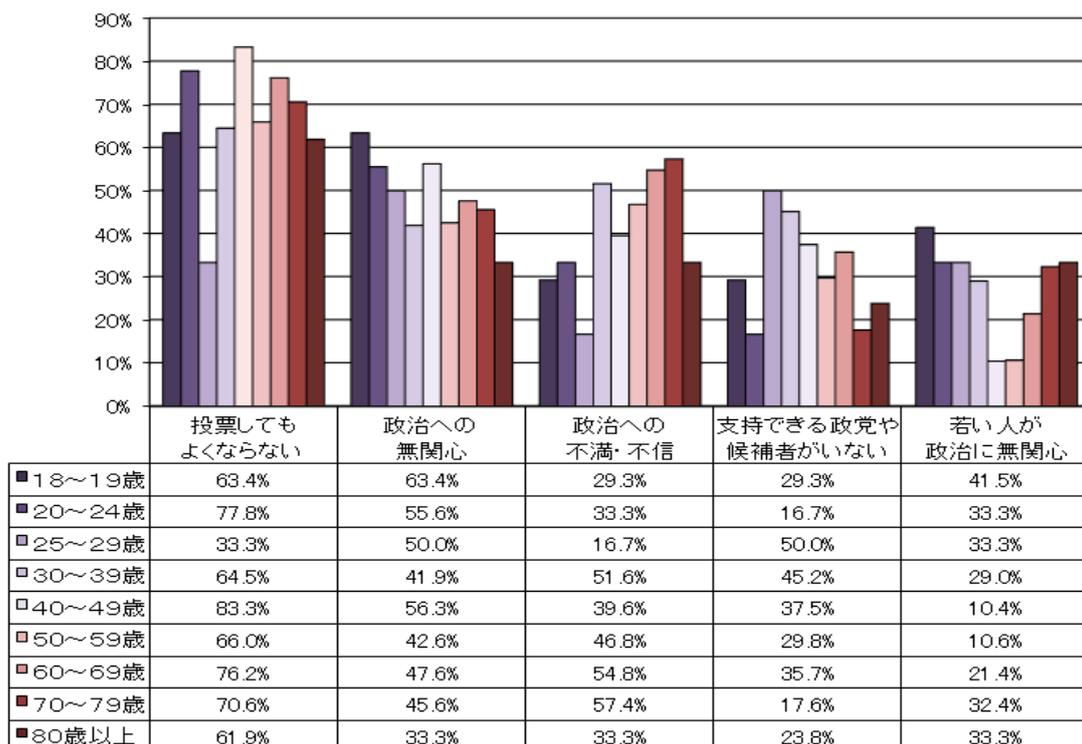
問6 近年の選挙で投票率が低い理由と思われるものを、次の中から3つまで選んでください。



低投票率の要因として、「投票しても政治はよくなると思う人が多いため」(70.2%)、「政治への無関心」(48.8%)、「政治または政治家への不満や不信のあらわれ」(45.0%)と政治に対する不信感のあらわれと思われるものが上位を占め、次いで「支持できる政党や候補者がいないため」(29.8%)、「若い人に政治に無関心な人が多いため」(25.5%)と政治への関心の低さを原因にあげる意見が多く見られました。

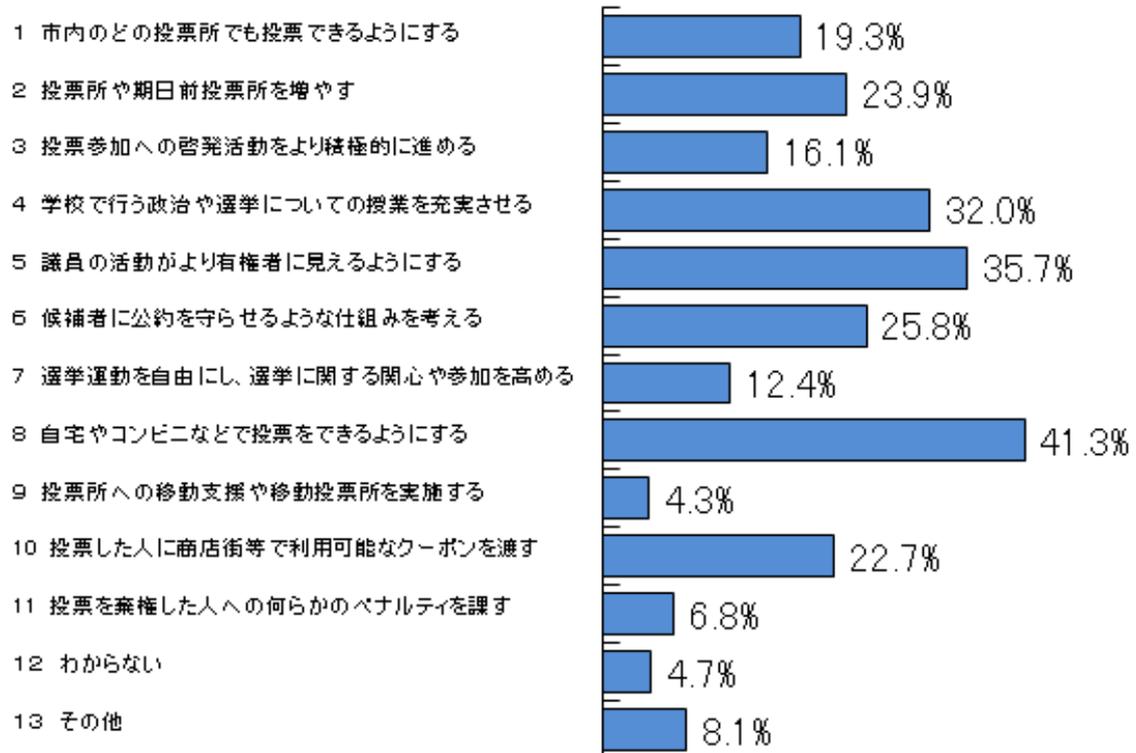
年代別にみると、「投票してもよくなる」はすべての年代で高く、「政治への不満・不信」は30代以降の年代で、「政治への無関心」は若い世代が特に高くなっています。

図7 低投票率理由の年代別内訳（上位5位）



問7 投票率を上げるためにはどのような方法が良いと思いますか。

次の中から3つまで選んでください。



投票率を上げるための方策としては、「自宅やコンビニなどで投票をできるようにする」が最も高く 41.3%でした。次いで高かったものは、「議員の活動がより有権者に見えるようにする」が 35.7%、「学校で行う政治や選挙についての授業を充実させる」が 32.0%と、上位3位は30%を超える結果となりました。

以下、「候補者に公約を守らせるような仕組みを考える」が 25.8%、「投票所や期日前投票所を増やす」が 23.9%という結果でした。



みんなの一票大切に！

図8、図9は、問7の結果を年代別に分析し、まとめたものです。

「自宅やコンビニなどで投票をできるようにする」は、70歳代以上を除く年代で1位となっており、全体的に投票しやすい環境を求めていることがわかります。

また、「学校で行う政治や選挙についての授業を充実させる」もすべての世代で順位が高く、30・40歳代以下のすべての年代で2位となっており、若い世代ほど学校教育の充実の必要性を感じているようです。

図8 投票率を上げるための方法（年代別） ※3つまで選択可

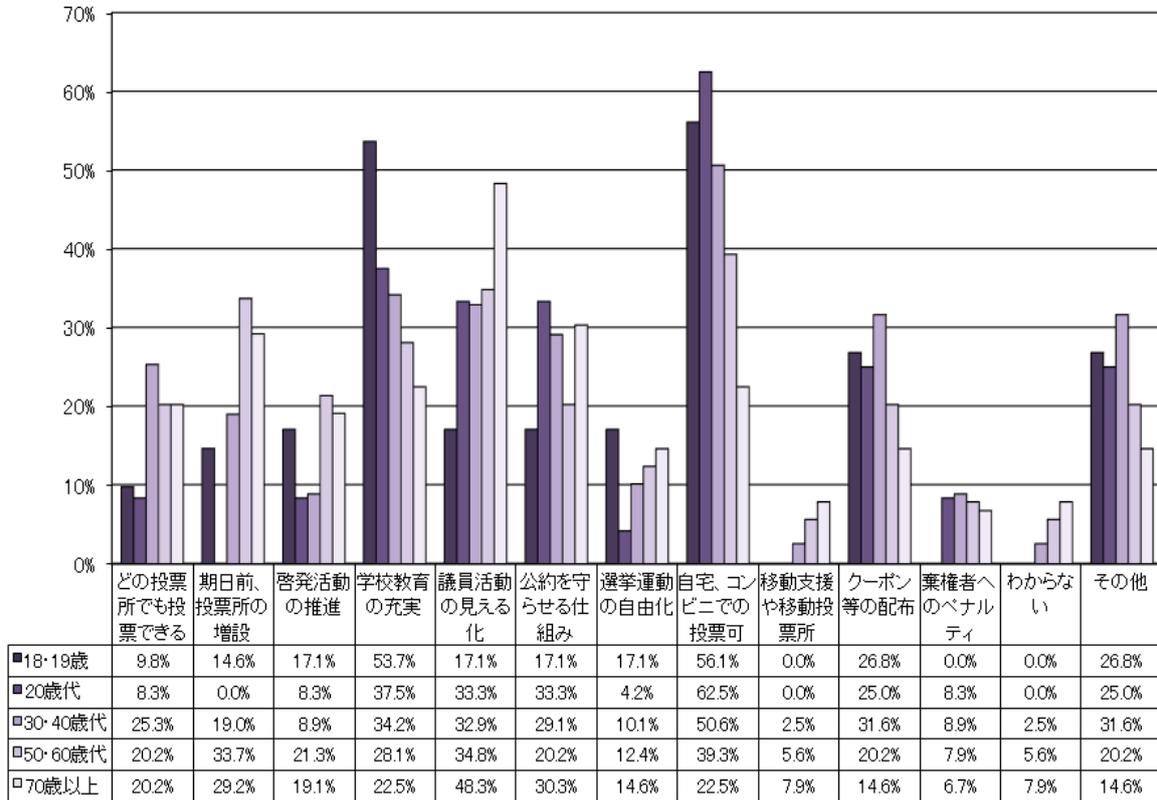


図9 投票率を上げるための方法（年代別上位5位）※その他は除く

	1位:年代別割合	2位:年代別割合	3位:年代別割合	4位:年代別割合	5位:年代別割合
18・19歳	自宅、コンビニで投票可 56.1%	学校教育の充実 53.7%	クーポン等の配布 26.8%	啓発活動の推進 議員活動の見える化 公約を守らせる仕組み 選挙運動の自由化 17.1%	
20歳代	自宅、コンビニで投票可 62.5%	学校教育の充実 37.5%	議員活動の見える化 公約を守らせる仕組み 33.3%		クーポン等の配布 25.0%
30・40歳代	自宅、コンビニで投票可 50.6%	学校教育の充実 34.2%	議員活動の見える化 32.9%	クーポン等の配布 31.6%	公約を守らせる仕組み 29.1%
50・60歳代	自宅、コンビニで投票可 39.3%	議員活動の見える化 34.8%	期日前、投票所の増設 公約を守らせる仕組み 33.7%	学校教育の充実 28.1%	啓発活動の推進 21.3%
70歳代以上	議員活動の見える化 48.3%	公約を守らせる仕組み 30.3%	期日前、投票所の増設 公約を守らせる仕組み 29.2%	学校教育の充実 自宅、コンビニで投票可 22.5%	

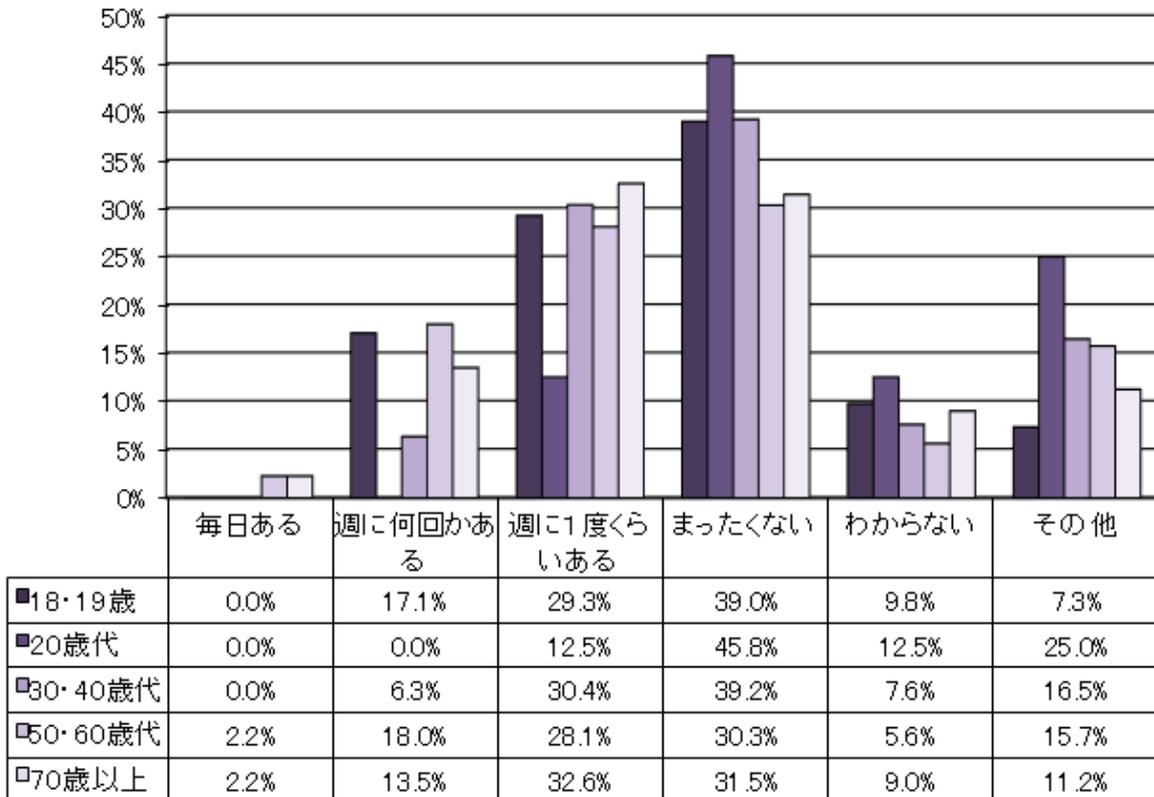
問8 家庭や学校、職場などで、家族や友人と政治的な事柄を話題にしたり議論したりすることはありますか。



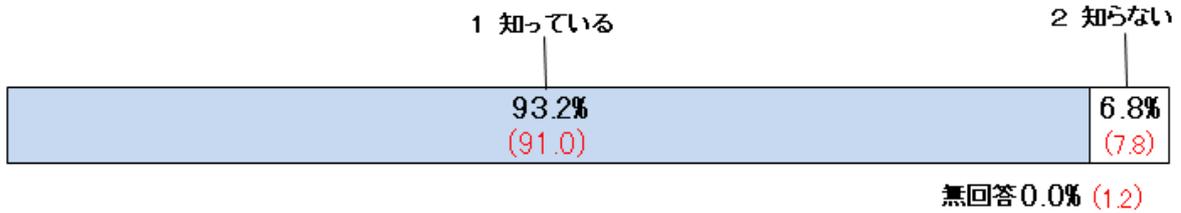
家庭や学校、職場などで政治的な事柄を話題にする頻度については、「まったくない」が最も高く 34.8%、次いで「週に1度くらいある」が 29.2%でした。

6 ページの問3では、「国の政治に対し関心を持っている人」は 70%以上ありましたが、当該設問では「週に1度以上話題にしたり議論したりする人」(選択肢1~3)の割合は 42.8%となっており、政治に対し関心を持っていても、それを他者と話題にしたり議論をしたりする環境が整っていないものと思われます。

図10 家庭や学校、職場などで、家族や友人と政治的な事柄について話題にする頻度 (年代別)



問9 あなたは、期日前投票をご存知ですか。



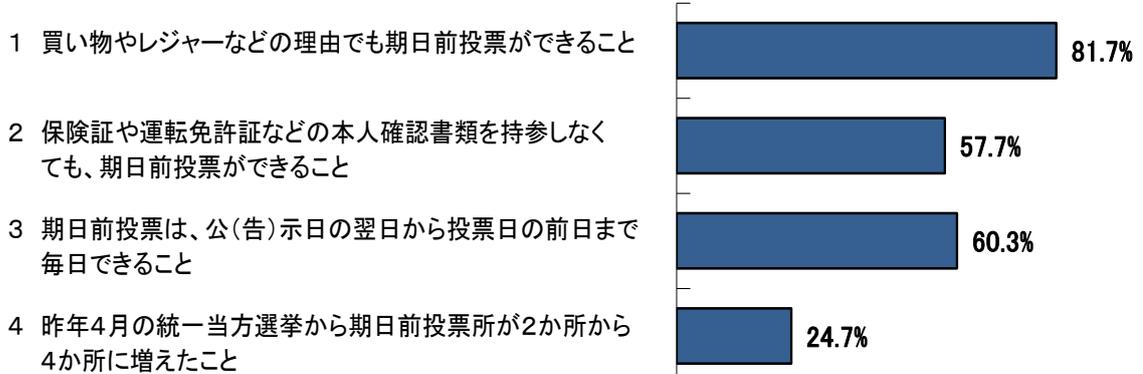
期日前投票の制度自体は 93.2%の人が知っていると答えており、平成 16 年から開始された期日前投票制度が、多くの人に認知されていることがわかります。

期日前投票制度を知っていると回答した人のうち「買い物やレジャーなどの理由でも期日前投票ができること」については、81.7%の人が知っていると答えています。

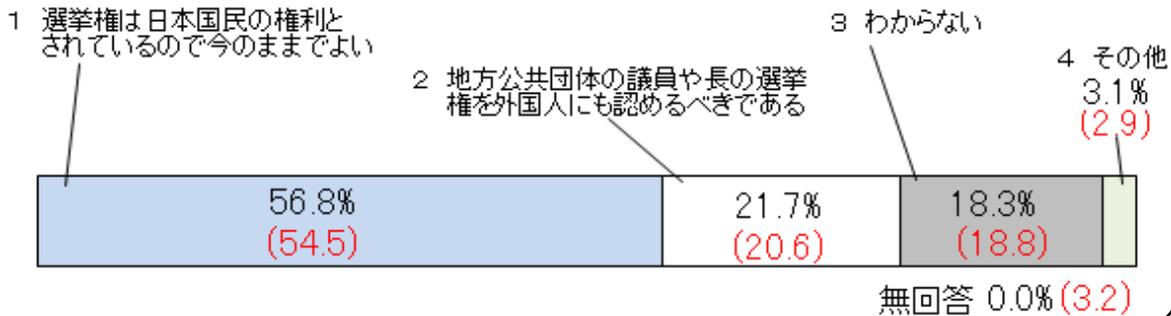
また、「公(告)示日の翌日から投票日の前日まで毎日できること」については 60.3%、「本人確認書類を持参しなくても、期日前投票ができること」は 57.7%といずれも半数を超えており、期日前投票制度の内容まで理解が進んでいることがうかがえます。

昨年の統一地方選挙から、期日前投票を 2 か所から 4 か所に増設したことの認知度については、24.7%とかなり低かったことから、投票環境の改善等の取り組みについて積極的に周知していく必要があります。

問9の1 次の1から4までについて、知っている項目をすべて選んでください。



問10 国内在住の日本国籍を有していない人(外国人)は国政選挙と同様に地方公共団体の議員や長の選挙権(投票する権利)がありませんが、どう思いますか。



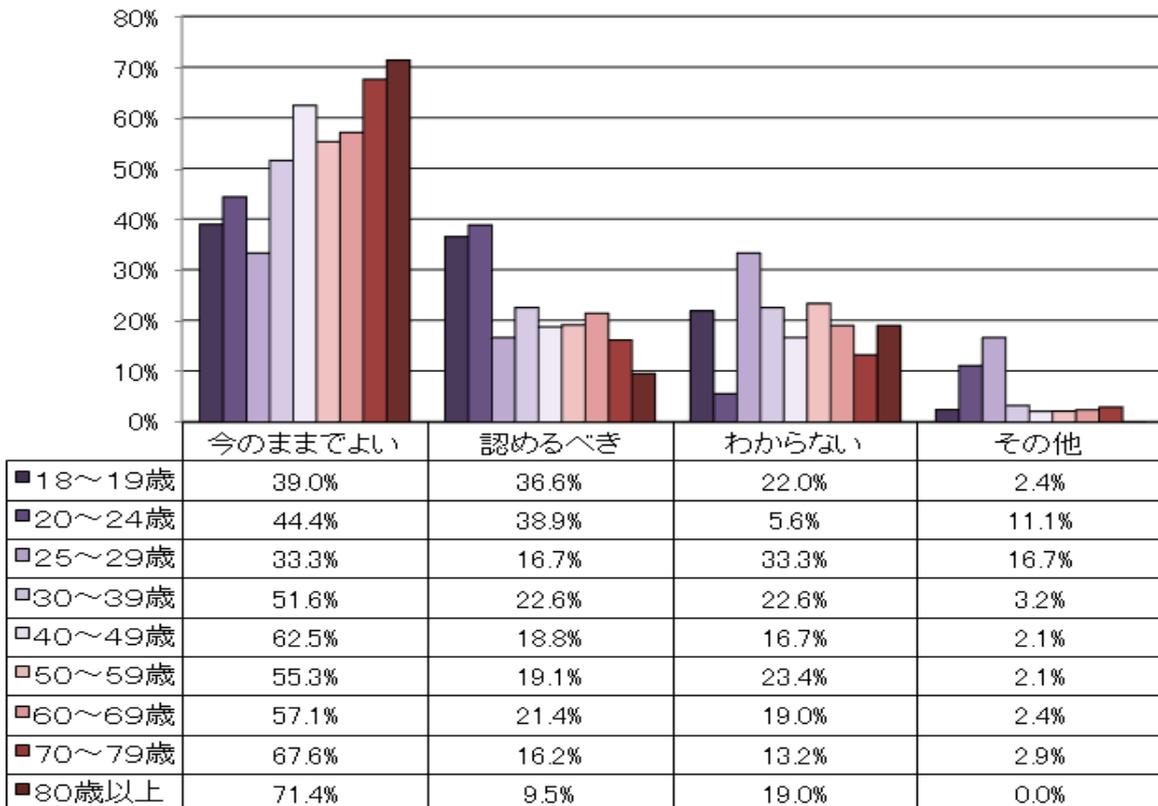
外国人に選挙権を付与することについては、「選挙権は日本国民の権利とされているので今のままでよい」が56.8%となっており、半数以上の方が否定的な回答をしています。

しかし、「地方公共団体の議員や長の選挙権を外国人にも認めるべきである」と回答した人が21.7%あったことは、約80か国7,000人を超える外国人が暮らす本市においては、外国人の存在が身近なものとして認識されていることがうかがえます。

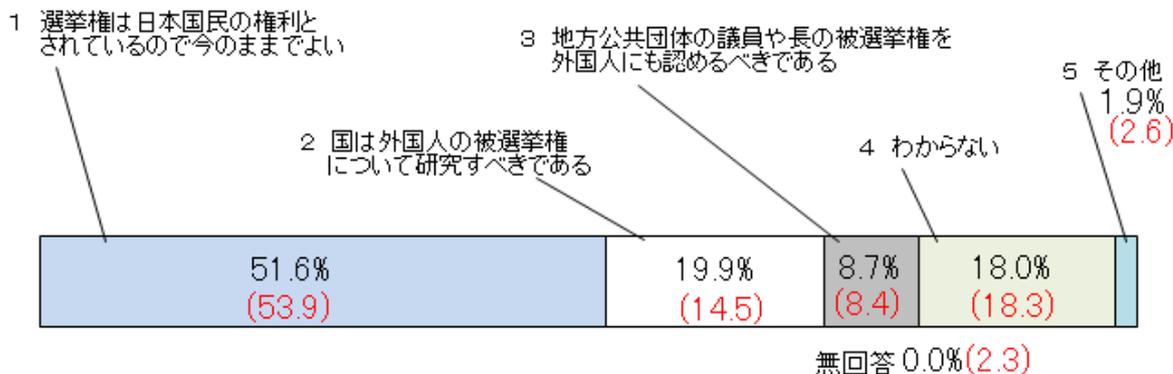
なお、「その他」の自由意見として、「在住期間によっては認めてもよい」、「日本国籍を取得しやすくする」などがありました。

年代別に見ると、30歳以上のすべての年代で「今のままでよい」と答えた人が5割を超えています。24歳以下では4割近くが「認めるべきである」と答えています。

図11 「外国人の選挙権」に関する意識の年代別内訳



問11 また、同じように、こうした人は、地方公共団体の議員や長の被選挙権(選挙の候補者となる権利)もありませんが、どう思いますか。



外国人の被選挙権についても、「被選挙権は日本国民の権利とされているので今のままでよい」が51.6%と最も多く、半数以上の人が否定的です。

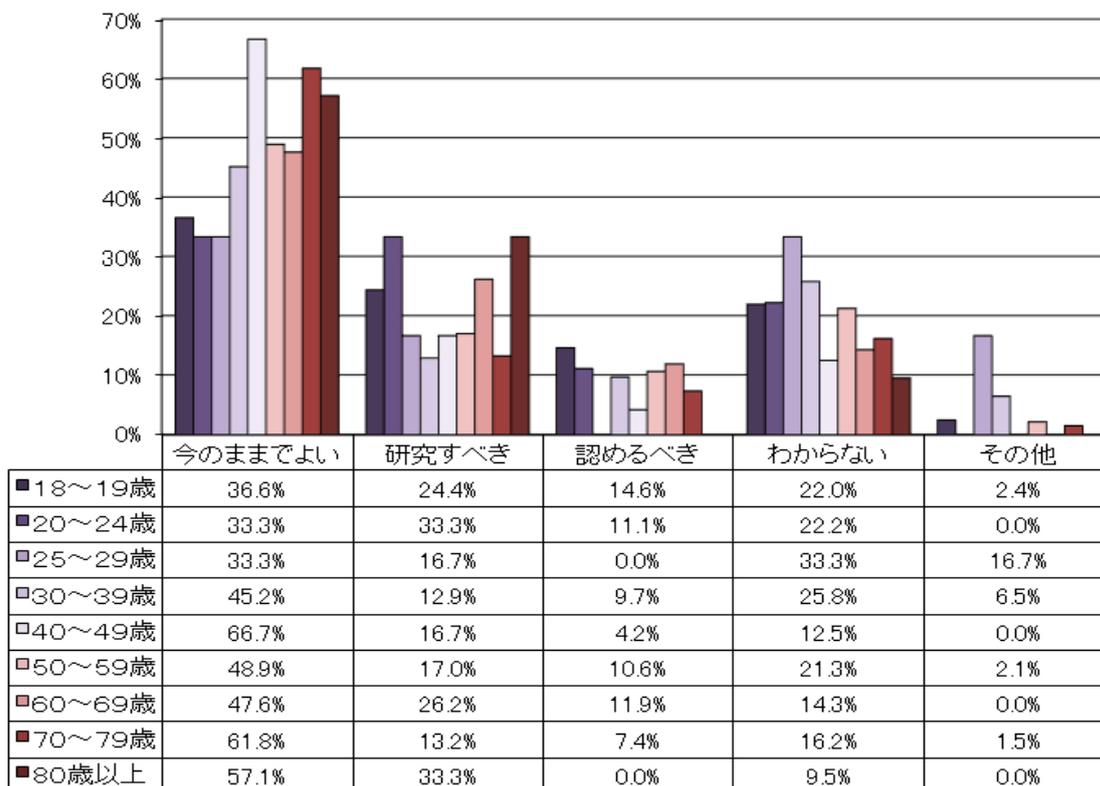
問10で「地方公共団体の議員や長の選挙権を外国人にも認めるべきである」と回答した人は21.7%ありましたが、外国人の被選挙権について認める人は8.7%と低くなっており、慎重な意見が多いことがうかがえます。

なお、「その他」の自由意見として、「在住期間によっては認めてもよい」との意見がありました。

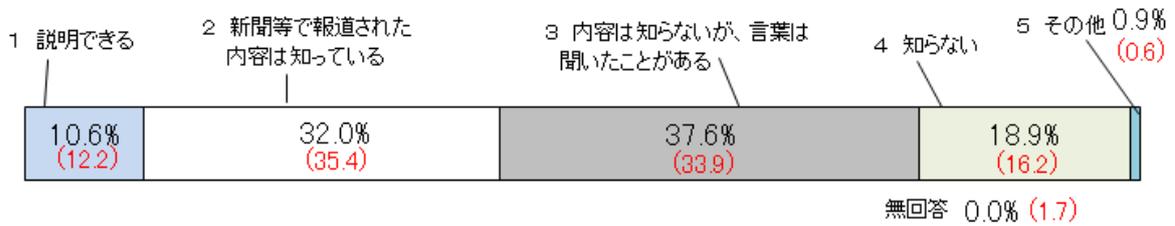
年代別に見ると、「今のままでよい」と回答した人の割合はすべての年代で高くなっています。

また、選挙権について「認めるべきである」と4割近くが答えた24歳以下におきましても、「被選挙権を認めるべきである」の割合は、約1割強と低くなっています。

図12 「外国人の被選挙権」に関する意識の年代別内訳



問12 憲法改正のためには、国民が賛否を投票(国民投票制度)することが必要となりますが、この制度を知っていますか。

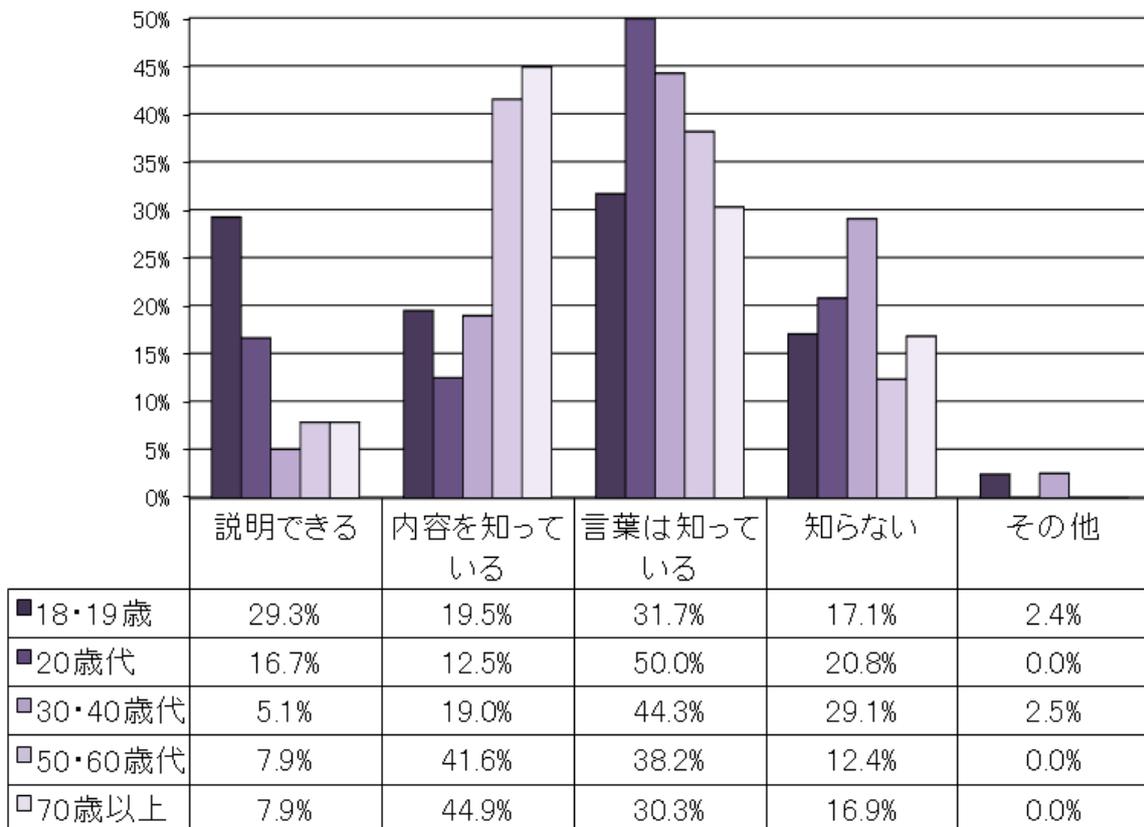


近年、憲法改正が政治の話題となる機会が多いことから、憲法改正に必要な手続きである国民投票制度の認知状況について質問をしました。

制度の内容まで「説明できる」と回答した方は10.6%でしたが、「新聞等で報道された内容は知っている」(32.0%)と「内容は知らないが、言葉は聞いたことがある」(37.6%)を合わせると80.2%となり、「国民投票」という言葉については広く認知されていることが確認できました。

今後は、国民投票制度について理解を深めてもらうための啓発が必要と思われます。

図13 国民投票制度の認知状況(年代別)



(5) 意見・感想の集計

自由意見の集計 (96 件)

意識調査にご協力をいただいた方で、意見・感想をご記入いただいたものについて、分類集計いたしました。

1. 政治家（政党）に関する意見 (43 件)

- ・政治家の不正や無責任等に対する不信 (7 件)
- ・投票したいと思う政治家（政党）がない (6 件)
- ・政治家（政党）の政治に対する姿勢への不満 (7 件)
- ・公約が守られないことへの批判 (3 件)
- ・政治家（政党）の批判合戦に対する不満 (5 件)
- ・議員・候補者の意見や活動が分かりにくい (4 件)
- ・国会運営への批判 (4 件)
- ・その他 (7 件)

2. 政治に関する意見 (20 件)

- ・現状の政治に不満がある（分かりにくさ、制度、不祥事等） (12 件)
- ・政治に費用がかかり過ぎている (6 件)
- ・今後の政治への願い等 (2 件)

3. 選挙制度に関する意見 (3 件)

- ・今の時代に合致していな公職選挙法への批判 (3 件)

4. 生活（所得、税金、老後等）に関する意見 (10 件)

- ・子育ての不満 (3 件)
- ・老後の不安 (4 件)
- ・所得が増えないことへの不安 (3 件)

5. 主権者教育に関する意見 (7 件)

- ・主権者教育の重要性 (7 件)

6. 投票環境の向上に関する意見 (7 件)

- ・投票所・期日前投票所の増設・時間延長に関する意見 (2 件)
- ・移動投票所の設置に関する意見 (2 件)
- ・インターネット及びコンビニエンスストアでの投票推進に関する意見 (3 件)

7. その他 (6 件)

- ・日本の将来についての意見 (4 件)
- ・市政・市議会に対する意見 (1 件)
- ・その他 (1 件)

4 調査表

令和元年度

政治と選挙についての意識調査

大和市明るい選挙推進協議会

大和市選挙管理委員会事務局

電話：046(260)5542

(電話受付時間：月曜日～金曜日 ※祝日を除く)

9:00～12:00、13:00～17:00)

回収順番号

《記入及び郵送についてのお願い》

- 必ずご本人が記入してください。
- 回答は **あてはまる番号に○をつけてください。**
- 設問は上から順に回答してください。また矢印や指示がある場合は、それに従ってください。
- 記入がおわりましたら、お手数ですが同封の返信用封筒でご返送ください。
- 2月28日(金)まで**にご投函くださいますよう、ご協力をお願い申し上げます。

最初にあなた自身のことについてお聞かせください。

性別	1 男性	2 女性				
年代	1 18～19歳	4 30～39歳	7 60～69歳			
	2 20～24歳	5 40～49歳	8 70～79歳			
	3 25～29歳	6 50～59歳	9 80歳以上			
職業	【自営業、家族従事者】		【無職】			
	1 農・林・漁業	2 商・工業（商店、個人工場経営者など）	3 自由業（開業医、弁護士、芸術家など）	4 建設業	9 主婦・主夫（専業）	10 学生
職業	【勤め人】					
	5 管理職	6 事務職（一般事務、経理など）	7 専門技術職（医師、看護師、技術者、教師、保育士など）	8 現業職・販売職（作業的な仕事、販売・サービスの仕事、パート的な仕事など）		
居住地区	1 下鶴間・つきみ野	6 深見・深見西・深見東・深見台・大和東・大和南				
	2 中央林間・中央林間西	7 中央・草柳（1丁目、2丁目）・下草柳				
	3 南林間・林間・鶴間（2丁目）・西鶴間（1丁目、2丁目、6丁目～8丁目）	8 草柳（3丁目）・柳橋・福田（1丁目～8丁目）				
	4 鶴間（1丁目）・西鶴間（3丁目～5丁目）	9 上和田（上和田団地を除く）				
	5 上草柳・桜森	10 上和田団地・下和田・いちょう団地				
現住所の居住年数	1 1年未満	3 5～10年未満	5 20～30年未満	7 わからない		
	2 1～5年未満	4 10～20年未満	6 30年以上			
投票所までの所要時間	1 5分未満	3 20分未満	5 わからない			
	2 10分未満	4 20分以上				

※「徒歩」による移動を想定した場合の時間数で番号を選択してください。

問1 あなたは、現在の生活についてどう感じていますか。次の中から1つ選んでください。

- 満足している
- 3 やや不満である
- 5 なんともない
- 2 だいたい満足している
- 4 不満である

問2 あなたは、現在の国の政治についてどう感じていますか。次の中から1つ選んでください。

- 満足している
- 3 やや不満である
- 5 なんともない
- 2 だいたい満足している
- 4 不満である

問3 あなたは、日頃国の政治に関心をもっていますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 非常に興味をもっている (→ 問3の1へ)
- 2 ある程度興味をもっている (→ 問3の1へ)
- 3 あまり関心がない (→ 問3の2へ)
- 4 まったく関心がない (→ 問3の2へ)



(問3の1) その理由は何ですか。次の中から1つ選んでください。

- 1 自分の生活に密接な関係があるから
- 2 各個人が政治に関心をもつことが民主政治には必要だから
- 3 政治自体に興味があるから
- 4 政治に関与する余裕があるから
- 5 その他（具体的に：)



(問3の2) その理由は何ですか。次の中から1つ選んでください。

- 1 自分の生活に政治は関係ないから
- 2 個人の意見は政治に影響を与えないから
- 3 政治自体に興味がないから
- 4 政治に関与する余裕がないから
- 5 その他（具体的に：)

問4 あなたは、支持する政党がありますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 長い間ずっと支持している政党がある
- 2 そのときどきで変わるが、支持する政党はある
- 3 以前は支持する政党がなかったが、現在はある
- 4 以前は支持する政党があったが、現在はない
- 5 支持する政党はない
- 6 わからない

(裏面にも設問がありますので、ご協力をお願いいたします。)

問5 近年、選挙の投票率は低い状態が続いていますが、このように投票率が低いことについてどう思いますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 投票は個人の自由なので別にかまわない
- 2 投票率が低いのは好ましくないが、やむを得ない
- 3 自分たちの代表を選ぶという本来の趣旨から、好ましくない
- 4 わからない

問6 近年の選挙で投票率が低い理由と思われるものを、次の中から3つまで選んでください。

- 1 政治への無関心な人が多いため
- 2 政治または政治家への不満や不信のあらわれ
- 3 支持できる政党や候補者がいないため
- 4 自分の予定（仕事、レジャーなど）を中心に考える人が多いため
- 5 投票しても政治はよくなると思わない人が多いため
- 6 争点のない選挙が多く、有権者の関心が低い
- 7 候補者、政党の政策宣伝やPRが不足しているため
- 8 若い人に政治に無関心な人が多いため
- 9 投票できる時間が短いため
- 10 投票所が遠いため（投票所の場所がわからない）
- 11 わからない
- 12 その他（具体的に： _____）

問7 投票率を上げるためにはどのような方法が良いと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを3つまで選んでください。

- 1 市内のどの投票所でも投票できるようにする
- 2 投票所や期日前投票所の場所を増やす
- 3 投票参加への啓発活動をより積極的に進める
- 4 学校で行う政治や選挙についての授業を充実させる
- 5 議員の活動がより有権者に見えるようにする
- 6 候補者に公約を守らせるような仕組みを考える
- 7 選挙運動をもっと自由にして、選挙に関する関心や参加を高める
- 8 自宅やコンビニなどで投票をできるようにする
- 9 投票所への移動支援や移動投票所を実施する
- 10 投票した人に商店街等で利用可能なクーポンを渡す
- 11 投票を棄権した人に何らかのペナルティを課す
- 12 わからない
- 13 その他（具体的に： _____）

問8 あなたは家庭や学校、職場などで、家族や友人と政治的な事柄を話題にしたり、議論したりすることがありますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 毎日ある
- 2 週に何回かある
- 3 週に1度くらいある
- 4 まったくない
- 5 わからない
- 6 その他（具体的に： _____）

問9 あなたは期日前投票制度をご存知ですか。

- 1 知っている（→ 問9の1へ）
- 2 知らない（→ 問10へ）

↓
(問9の1) 次の中から知っている項目をすべて選んでください。

- 1 買い物やレジャーなどを理由として期日前投票ができること
- 2 印鑑や本人確認証を持参しなくても、期日前投票ができること
- 3 期日前投票は、公・告示（立候補の届出）日の翌日から投票日の前日まで毎日（土日を含む）できること
- 4 昨年の市選挙、県選挙及び参議院選挙で市の期日前投票所が2か所から4か所に増えたこと

↓
(問10へ) ←

問10 国内在住の日本国籍を有していない人(外国人)は、国政選挙(衆・参議院選挙)と同様に地方公共団体の議員や長の選挙権(投票する権利)がありませんが、どう思いますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 選挙権は日本国民の権利とされているので、今のままで良い
- 2 地方公共団体の議員や長の選挙権を外国人にも認めるべきである
- 3 わからない
- 4 その他（具体的に： _____）

問11 また同じように、こうした人は、地方公共団体の議員や長の被選挙権(候補者となる権利)もありませんが、どう思いますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 被選挙権は日本国民の権利とされているので、今のままで良い
- 2 国は外国人の被選挙権について研究すべきである
- 3 地方公共団体の議員や長の被選挙権を外国人にも認めるべきである
- 4 わからない
- 5 その他（具体的に： _____）

問12 憲法改正のためには、国民が賛否を投票(国民投票制度)することが必要となりますが、あなたはこの制度をご存知ですか。次の中から1つ選んでください。

- 1 知人等に説明できる程度は知っている
- 2 新聞等で報道された内容は知っている
- 3 内容は知らないが「国民投票(制度)」という言葉は聞いたことがある
- 4 知らない
- 5 その他（具体的に： _____）

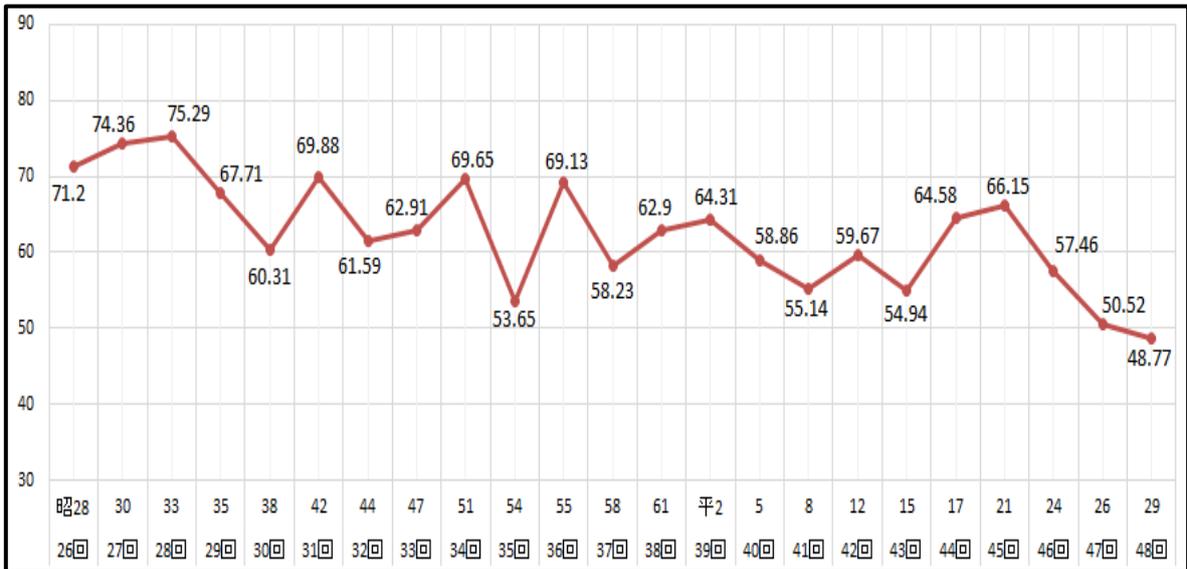
◎ 自由意見欄： 政治や選挙に関して日頃から感じていること、あるいはこのアンケートに回答して感じたこと等を自由にご記入ください。

[_____]

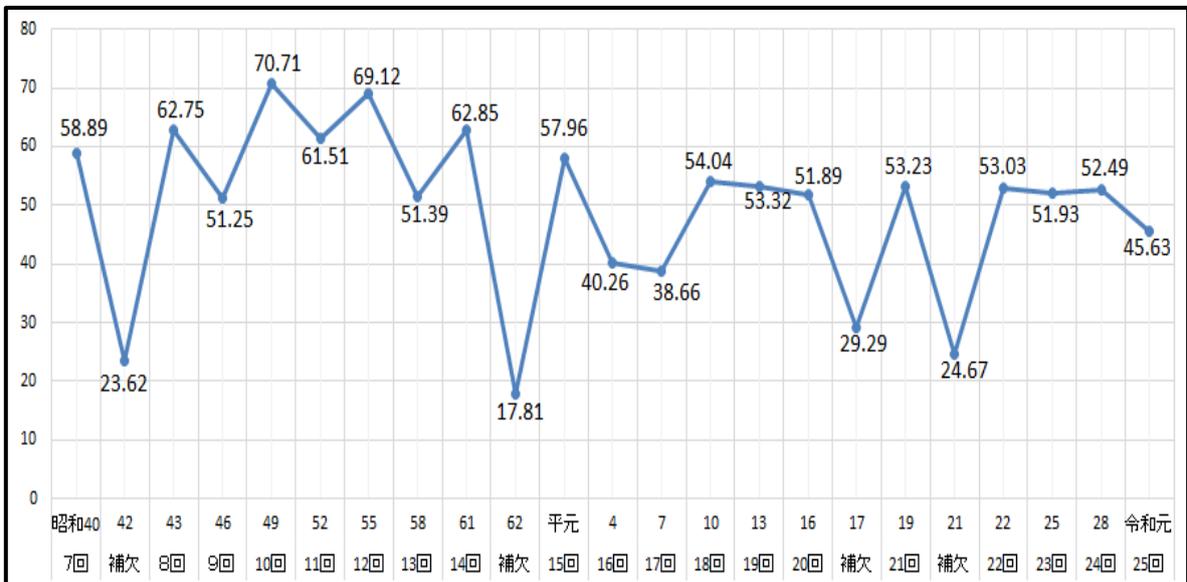
ご協力ありがとうございました。

5 資 料

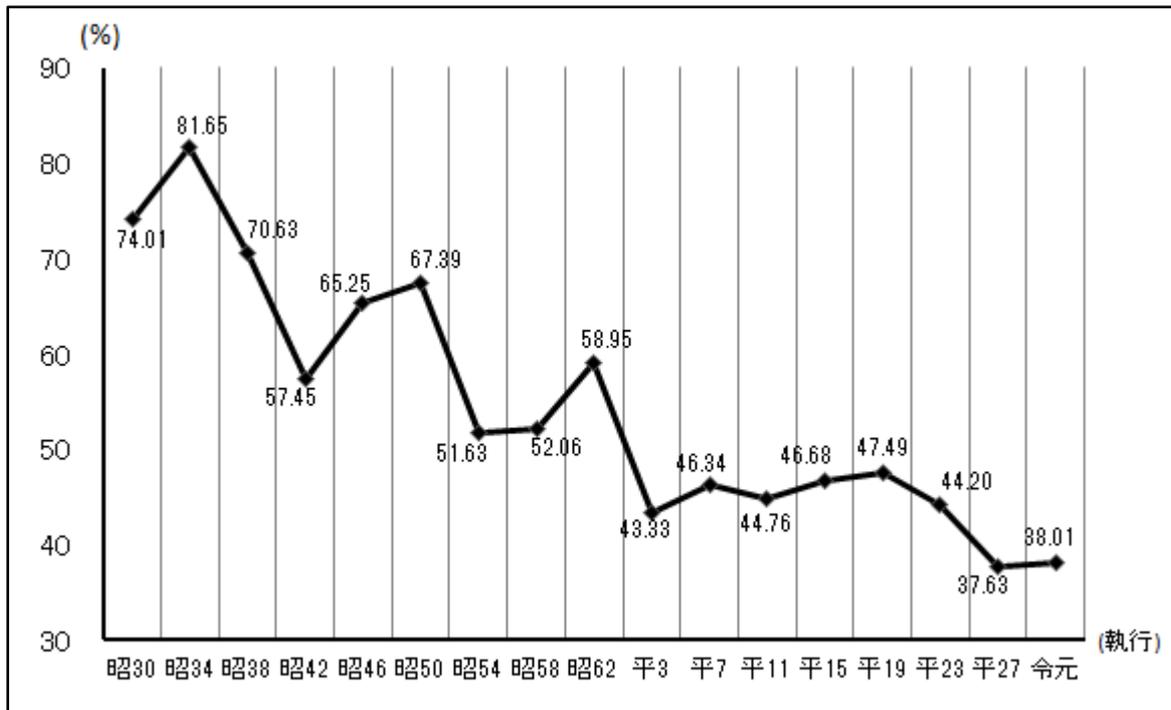
(1) 衆議院小選挙区選出議員選挙投票率の推移 (大和市)



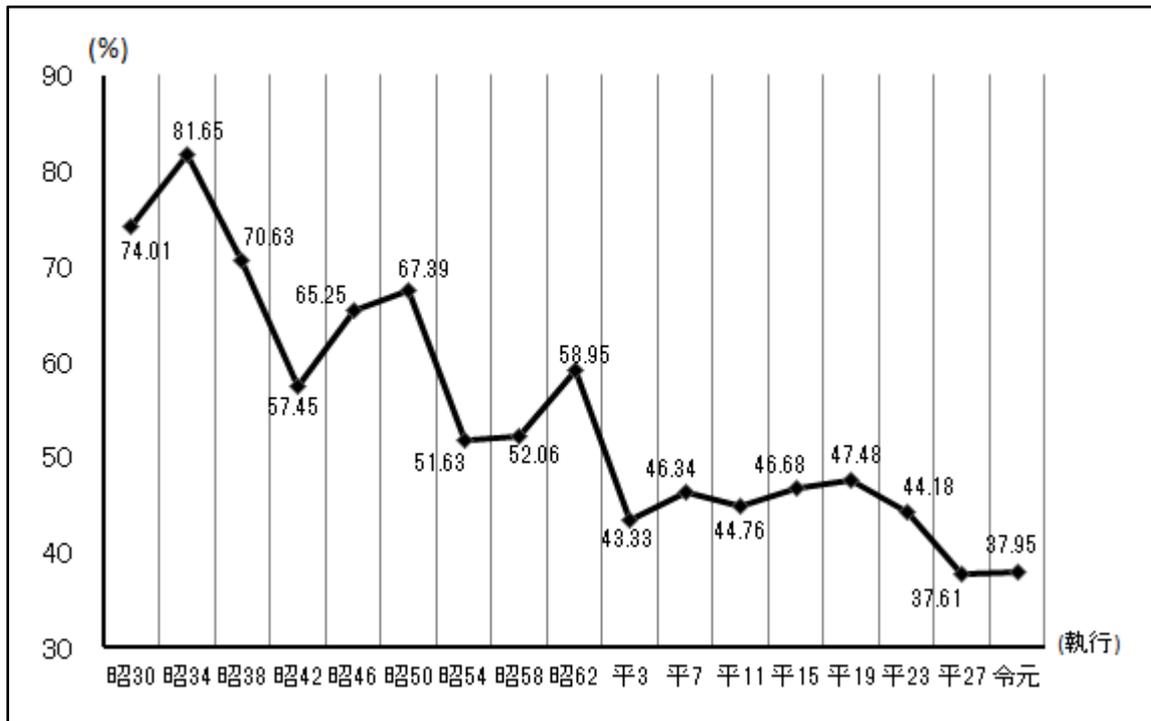
(2) 参議院神奈川県選出議員選挙投票率の推移 (大和市)



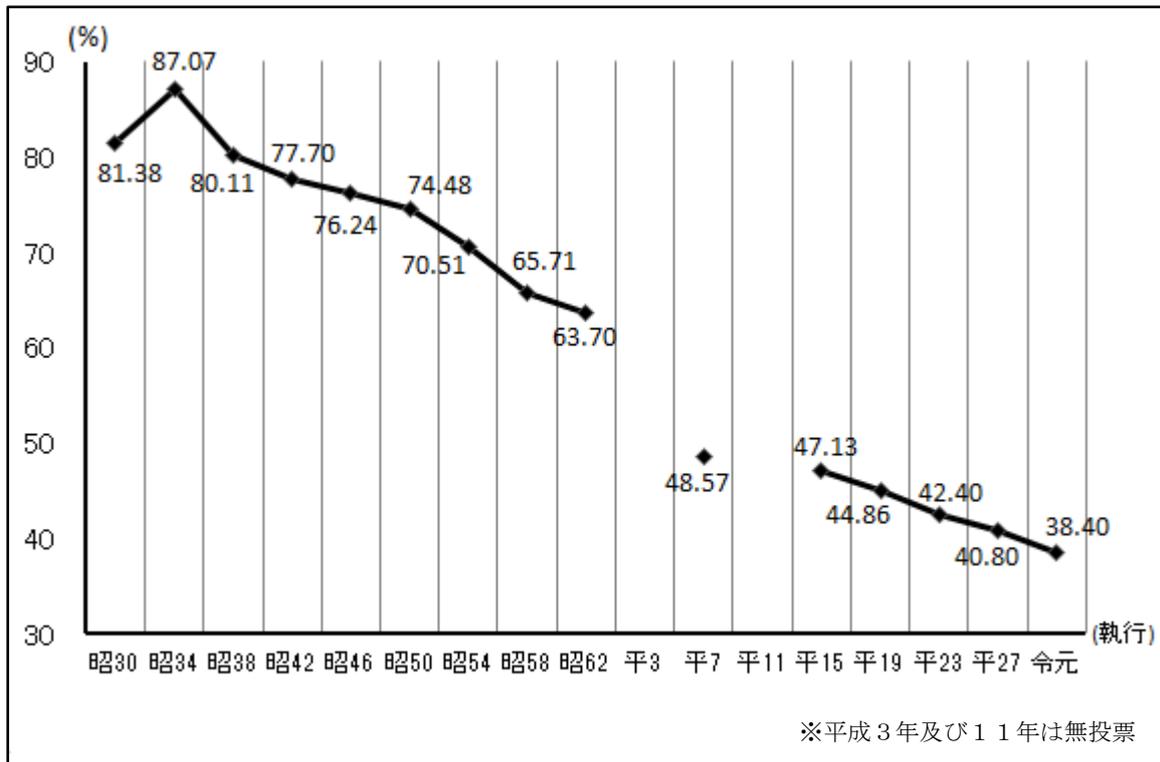
(3) 神奈川県知事選挙投票率の推移（大和市）



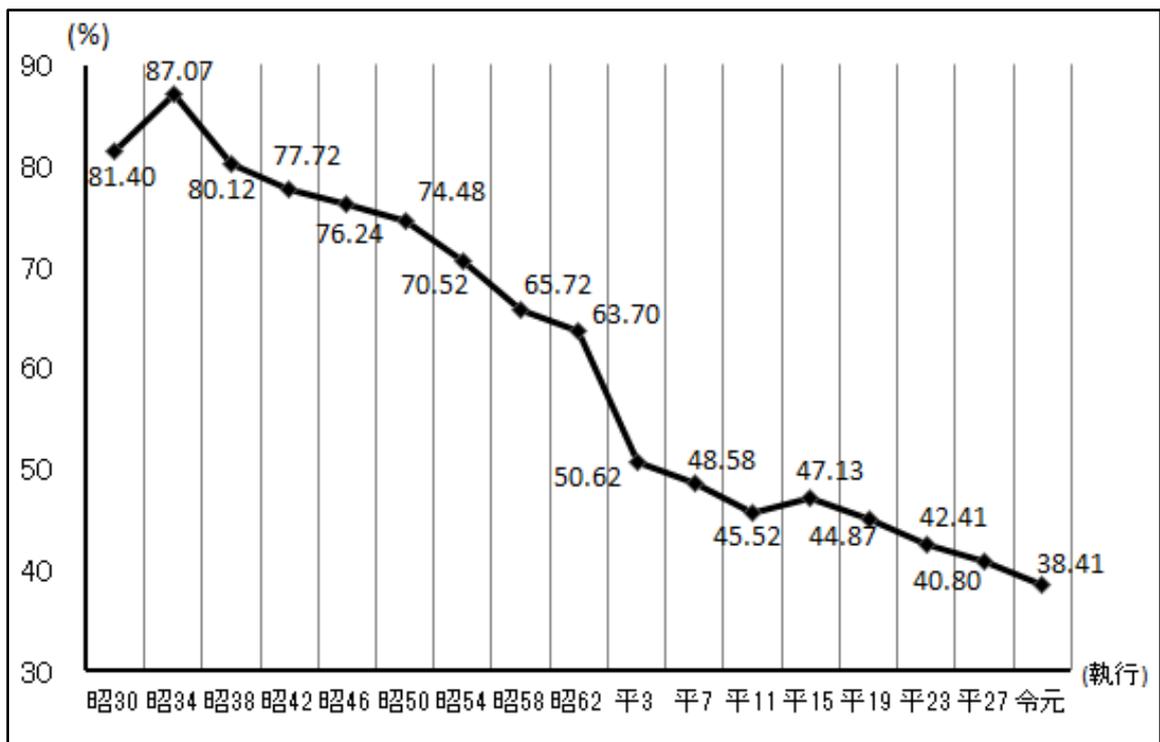
(4) 神奈川県議会議員選挙投票率の推移（大和市）



(5) 大和市長選挙投票率の推移



(6) 大和市議会議員選挙投票率の推移



☆ みんなの一票大切に！ ☆



明るい選挙キャラクター「選挙のめいすいくん」